

領域8 インフォーマルミーティング議事録

開催日時：2024/9/18 (水) 12:30 - 13:30

開催地：北海道大学

議長：永崎 洋（領域代表、産総研）

司会：土射津 昌久（運営委員代表、奈良女子大）

議事録作成：曾田 繁利（書記、理研）

出席者

領域代表（2023/4 - 2024/3）永崎 洋（産総研）

領域副代表（2023/4-2024/3）黒木 和彦（阪大）

領域運営委員（2023/10 - 2024/9）

田中 将嗣（九工大工/実験）、曾田 繁利（理研/理論）、土射津 昌久（奈良女子大/理論）、
田端 千紘（原子力機構物質科学セ/実験）

領域運営委員（2024/4 - 2025/3）

迫田 将仁（北大/実験）、足立 伸太郎（京都先端大/実験）、北谷 基治（兵庫県立大/理論）、金
子 隆威（早稲田高等研/理論）、佐藤 芳樹（東京理科大/実験）

次期領域運営委員（2024/10 - 2025/9）

藤岡 正弥（産総研/低温・実験）、石塚 淳（新潟大/低温・理論）、東中 隆二（都立大/磁性・実
験）、角田 峻太郎（東大/磁性・理論）

参加者：43名（上記出席者を含めて）

学生優秀発表賞 受賞者の紹介

2024年春季大会における受賞者の紹介と表彰式が行われた。受賞者は以下の5名。

清水宏太郎（東大工）

村松 佑都（名大院工）

堀 文哉（京大院理）

室井 利彦（東大物性研）

西田 奎太（東大新領域）

議題1：プログラム編集について（土射津）

通常の大会との変更点

1. すべてのセッションが現地開催となった。講演・聴講ともにオンライン参加はなし。
2. 北海道開催にともなう移動の便宜のため、最終日午後の講演はなしとした。
3. 領域8主催のシンポジウムは2日目午後に設定した。
4. 学生優秀発表賞は前回の春季大会で行われたため、今回は行わなかった。
5. 前回と比較して発表申込者が大幅に増加した。

反省点・提案

1. 運営代表と他の運営委員との連絡にはメール、およびNextcloudを用いたが、運営委員にメールが届かないトラブルがあった。引き継ぎに残す。
2. 一部の教室が狭く、聴講できない方が出る状況があった。

今大会（2024秋）の公演数について

【2024秋 一般講演（申込みベース）】

	口頭	ポスター	合計
低温	211	78	289
磁性	95	76	171
全体	306	154	460

【(参考) 2024春（オンライン）】

	口頭	ポスター	合計
低温	124	34	156
磁性	48	33	81
全体	172	67	239

【(参考) 2023秋（東北大学）】

	口頭	ポスター	合計
低温	135	63	198
磁性	128	91	219
全体	263	154	417

今大会の概要集提出率

第79回年次大会（2024年）講演概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	237	229	96.6%
領域2	110	108	98.1%
領域3	260	247	95.0%
領域4	176	170	96.5%
領域5	206	203	98.5%
領域6	163	155	95.0%
領域7	126	123	97.6%
領域8	471	453	96.1%
領域9	142	138	97.1%
領域10	123	115	93.4%
領域11	469	436	92.9%
領域12	244	232	95.0%
領域13	65	64	98.4%
素粒子論領域	226	109	48.2%
素粒子実験領域	271	217	80.0%
理論核物理領域	131	104	79.3%
実験核物理領域	179	164	91.6%
宇宙線・宇宙物理領域	305	219	71.8%
ビーム物理領域	91	82	90.1%
物理と社会			
合計	3995	3568	89.3%

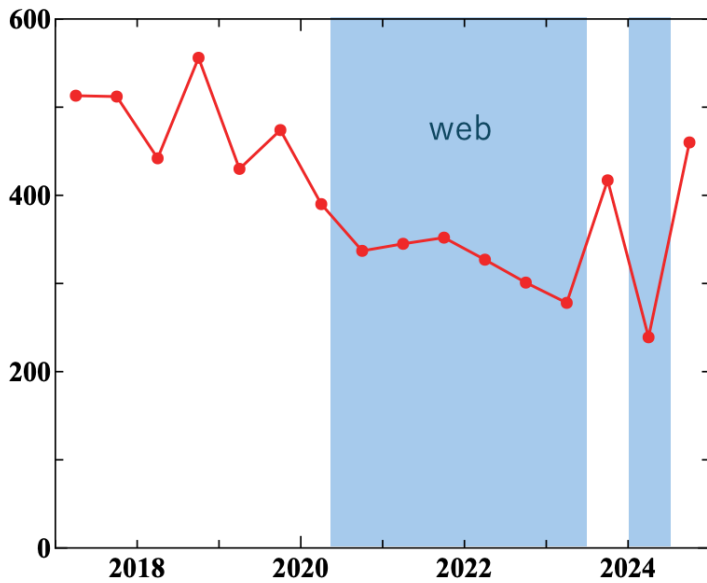
【“2024秋”の表における“磁性”と“低温”の定義】

磁性：第一キーワードが4f電子系または5f電子系

低温：第一キーワードがそれら以外

領域 8 講演数の推移

注) 領域 8 講演数は申込ベース



- 2024 秋: 460 (北大)
- 2024 春: 239 (Web)
- 2023 秋: 417 (東北大)
- 2023 春: 278 (Web)
- 2022 秋: 301 (東工大+Web)
- 2022 春: 327 (Web)
- 2021 秋: 352 (Web)
- 2021 春: 345 (Web)
- 2020 秋: 337 (Web)
- 2020 春: 390 (コロナ中止)
- 2019 秋: 474 (岐阜大)
- 2019 春: 430 (九州大)
- 2018 秋: 556 (同志社大)
- 2018 春: 442 (東京理科大)
- 2017 秋: 512 (岩手大)
- 2017 春: 513 (阪大)

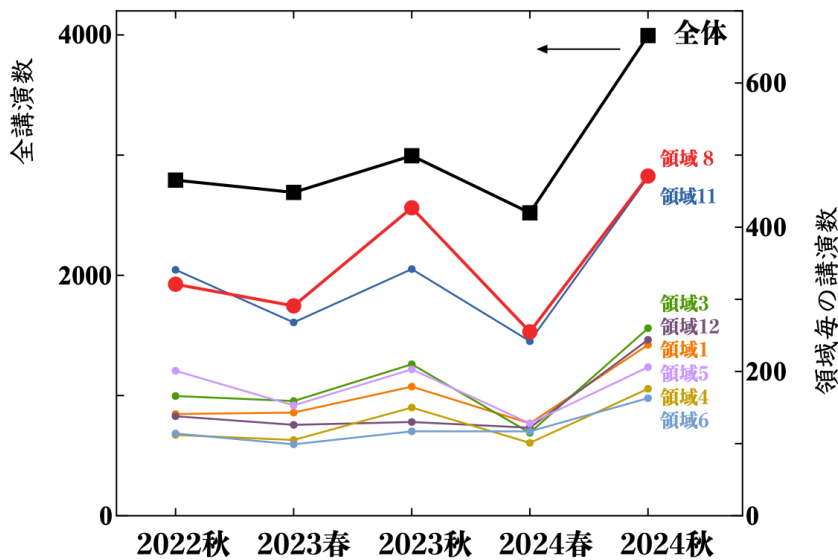
講演数は前回と比べて大幅に増加。

コロナ禍以前の水準に回復。

北海道での開催が影響している可能性を指摘。

対面とオンラインの違いが顕著化している。

他領域との比較 (直近 5 大会、上位 8 領域)



全講演数は約 4000 件。講演数はほぼ全領域で増加。

前々回の 2023 秋 (東北大学) よりも増加。

議題2：次期領域代表・副代表および運営委員の紹介（土射津）

領域代表（2024年4月～2025年3月）永崎 洋（産総研）

領域副代表（2024年4月～2025年3月）黒木 和彦（阪大理）

運営委員(2023年10月～2024年9月)

田中 将嗣（九工大工/実験）	副代表
曾田 繁利（理研/理論）	書記
土射津 昌久（奈良女子大/理論）	代表
田端 千紘（原子力機構物質科学セ/実験）	Web 担当

運営委員(2024年4月～2025年3月)

迫田 将仁（北大/低温・実験）	代表
足立 伸太郎（京都先端大/低温・実験）	Web 担当
北谷 基治（兵庫県立大/低温・理論）	書記
金子 隆威（早稲田高等研/磁性・理論）	副代表
佐藤 芳樹（東京理科大/磁性・実験）	学生賞

領域代表・副代表、運営委員の紹介が行われた。

次期運営委員(2024年10月～2025年9月)

藤岡 正弥（産総研/低温・実験）	副代表
石塚 淳（新潟大/低温・理論）	Web 担当
角田 峻太郎（東大/磁性・理論）	代表
東中 隆二（都立大/磁性・実験）	書記

次期運営委員の紹介があり、各役割担当はこの場で承認された。

議題3：次次期運営委員の推薦・承認（土射津→迫田）

中埜 彰俊（名古屋大低温・実験）

中山 耕輔（東北大学低温・実験）

播木 敦（大阪公立大学低温・理論）

井戸 康太（東京大学物性研究所磁性・理論）

松本 圭介（愛媛大学磁性・実験）

任期：2025年4月～2026年3月

次次期運営委員 5 名の推薦があり、各氏から一言挨拶があった。
次次期運営委員はこの場で承認された。

議題 4：次次期領域副代表の推薦・承認（永崎→黒木）

次次期領域副代表(任期：2026/4～2027/3)として、
柳瀬 陽一(京都大学 大学院理学研究科 教授)
の推薦があり、この場で承認された。
柳瀬先生から挨拶があった。

議題 5：領域委員会報告（永崎）

2024 年 5 月 24 日（金）13:00-17:50（Zoom によるオンライン開催）

1. 第 79 回年次大会（2024 年）提案の採択
 - ・招待講演： 9 件採択、0 件不採択 （内 1 件共催）
 - ・企画講演： 3 件採択、0 件不採択 （内 2 件共催）
 - ・チュートリアル講演：2 件採択、0 件不採択
 - ・米沢賞受賞記念講演： 2 件採択、0 件不採択 （内 1 件領域 8：田財先生）
 - ・AAPPS-JPS Award 受賞記念講演： 2 件採択、0 件不採択 （内 1 件領域 8：酒井先生）
 - ・シンポジウム（一般）： 12 件採択、0 件不採択 （内 1 件領域 8 主催、3 件共催）
 - ・シンポジウム（共催）： 5 件採択、0 件不採択 （内 3 件共催）

すべての提案が採択されたとの報告があった。

領域 8 からの提案

- ・シンポジウム講演
「ニッケル酸化物が拓く超伝導研究の新潮流」 提案者 永崎洋（産総研）
- ・AAPPS-JPS Award 受賞記念講演
「四極子近藤格子系における異常金属状態、多極子秩序、超伝導」 講演者 酒井明人（東大理）
- ・米沢賞受賞記念講演
「電子相関と幾何学的フラストレーションに由来する新規量子相転移の理論研究」 講演者 田財里奈（京大基研）

他領域からの提案

- ・シンポジウム講演 6 件
「量子多体系におけるダイナミクス研究の進展：極限宇宙の物理法則を探る」主領域 0 3、合同

領域01, 08, 11 提案者 堀田知佐 (東大総合文化)

*学術変革領域研究 (A)極限宇宙の物理法則を創る－量子情報で拓く時空と物質の新しいパラダイム との共催

「小規模パルスマグネットを利用した実験物理の発展と広がり」主領域03, 合同領域 素粒子実験、02, 08 提案者 池田暁彦 (電通大)

「トポロジカル超伝導の最近の進展」主領域04, 合同領域06, 08 提案者 水島健 (阪大基礎工)

「物質と情報の量子協奏」主領域04, 合同領域 素粒子論、01, 08, 11 提案者 小林研介 (東大理) *戦略的創造研究推進事業・さきがけ「物質と情報の量子協奏」領域 との共催

「Sir Martin Wood 賞 25年の歩み」 主領域06, 合同領域03, 04, 07, 08 提案者 小形正男 (東大理) *ミレニアム・サイエンス・フォーラム との共催

「第3の磁性体「交替磁性体」～有機・無機物質に広がる新規量子現象研究の現状と展望～」主領域07, 合同領域 03, 05, 08 提案者 橋本顕一郎 (東大新領域)

・企画講演 2件

「トポロジカル秩序とは何か」 主領域 04, 合同領域11, 08, 06 講演者 押川正毅 (東大物性研)

「トポロジカル秩序に関する最近の理論研究 -Fracton topological phases と新しい対称性-」 主領域 04, 合同領域11, 08, 06 講演者 戎弘実 (京大基研)

・招待講演 1件

「カイラル結晶中のカイラルフォノンと角運動量」 主領域05, 合同領域07, 08, 10 講演者 佐藤琢哉 (東工大理)

今回、領域8からの提案は1件のみであった。次回の春の学会に向けてアイデアのある方は今のうちからの準備が推奨された。

2. 計算物理領域の新設について

- 各領域から2024年3月のインフォーマルミーティングでの議論結果について報告され、新領域設立に向けたワーキンググループの設置については反対がないことが確認された。
- 各領域から2名、ワーキンググループメンバーを選出することになった。
- 領域8からは、現世話人の
曾田 繁利 (理研)
金子 隆威 (早稲田高等研)
を推薦。
- ワーキンググループでは以下を審議。
 - 領域名の決定 (試行期間中であることがわかるような名前にするか否かも含む)。

- 新領域のキーワード。
 - 新領域のプログラム編成方法。
 - 若手奨励賞の表彰者数の割当。
 - その他、新領域の試行開始に関する事項。
 - 領域委員会で検討結果を議論、理事会に報告。
 - 理事会で領域の新設を議論。
 - 新領域の設立が認められれば、その時点で3年間の試行期間を開始。
 - 試行期間終了後、領域委員会で常設化について検討、結果を理事会に報告。
 - 理事会で新領域の常設かを審議、可否を決定。
3. 講演概要の英語化について
- 大会の講演概要集に掲載される概要原稿について、日本語表記しかないことが外国人研究者の参加の大きなハードルとなっている。
 - 物理学会より、講演概要の英語化について領域インフォーマルミーティングで議論してほしいとのリクエストあり。
 - 概要を英語化するときの方法：現時点では下記のいずれか。
 - 現在の日本語1ページを、日本語1ページに同じ内容のものを英語で1ページ追加する（合計2ページ）。
 - 現在の日本語1ページを、英語1ページのみにする。
 - 他の方法があれば提案を歓迎。
 - 英語化のメリットとしては海外の研究者にも概要を読んでもらえる、DOIがつくことで参考文献として用いることが可能となる、などもあるため、物理学会のダイバシティのためにも前向きに進めたいとのこと。

多数決の結果、領域8では「現在の日本語1ページを、英語1ページのみにする」ことを提案することとなった。

4. 物理学会からのサポートレターの発出について

領域からの回答としては大きな反対はなかったものの、政治的に利用される可能性に対する懸念や、本当に出すかどうかの判断材料など、発出に関しては慎重になるべきという意見も多く、「日本物理学会からのサポートレター発出方針」については、もう少し慎重に検討して見直したうえで若干の修正を加えた案を、秋のインフォーマルミーティングまでに橋本副会長から領域代表にお送りすることとなった。

物理学会からのサポートレター発出方針案について、

- 物理学会の会員が中心となって進められているプロジェクトのうち、関連するコミュニティにおいて十分に議論が進められたと認められるものに対して物理学会から会長名でサポートレターを発出できる。共同利用・共同研究拠点の認定においては、関連する研究やプロジェクトについての議論が十分に進んでいると認められるものに対してサポートレターを発出できる。
- サポートレターの内容は典型的なものとする。

(サポートレター文案)

日本物理学会は、国内外の物理学の研究者・教育者・技術者などからなる組織であり、研究成果の発表や一般市民への紹介、社会連携・教育普及事業など、さまざまな活動を行っております。

貴〇〇の〇〇に応募しているプロジェクト「〇〇〇〇」は、日本物理学会の年会等において会員の間で十分議論されたものであり、貴〇〇におかれましても検討に値するものと考えられます。

(以下、共同利用・共同研究拠点の場合)

共同利用・共同研究拠点の認定に応募している「〇〇〇〇」は、日本物理学会の年会等において関連プロジェクトが会員の間で十分議論されたものであり、検討に値するものと考えられます。

日本物理学会・会長〇〇〇〇

との物理学会における現状の方針について紹介があり、

- 十分に議論が進められたということに対する定量性
- 物理学会として進めたいプロジェクトをどう判断するか

について議論がなされた。その結果、領域8として、改めてこのような決定は慎重であるべきということ、またシンポジウムや招待講演がなされていることが「望ましい」を「最低条件」とすることを提案することとした。

議題6：領域8 学生優秀発表賞について（永崎）

選考委員長：黒木 和彦（阪大理）

募集期間：10月中旬～10月末

- 詳しくは、本学会の終了後に、領域メーリングリスト、ホームページで周知
 - 応募者多数の場合は、事前書類選考を実施
- 参考：前回の募集要項（領域8 ホームページ）

http://www.r8.div.jps.or.jp/call_student_presentation_award.html

本審査 2025年3月(オンライン開催)の学会発表

- オンライン学会だが、学生優秀発表賞を実施
- 発表形式は学会発表に準じて行う

例年、優秀発表賞の申し込みが少ない。募集期間が講演申し込みのはるか前であることも原因として考えられる。多数の応募に向けできる限り周知することが推奨された。

募集期間のスケジュールについては予定通り。ただし、もし何かあった場合は延長する可能性。

議題7：その他（永崎）

- 講演数について意見交換

今回、講演数は下げ止まったと思われるが、北海道開催が理由の可能性もあり、簡単には判断できない。長期的にどうなるかは、次回の対面式の学会が待たれる。

- 次回のインフォーマルミーティングの日程について

次回のインフォーマルミーティングは3日目の夕方からの開催予定とした。

- SCES 2026 の日本開催について

石田憲二氏（京大理）より、SCES 2026 の日本開催が正式に決定し、2026年9月27日から10月2日の期間、富山国際会議場で行われることがアナウンスされた。

以上